

令和2年度第1回総合教育会議

○開催日時 令和2年6月25日(木) 午前10時15分～午後0時17分

○開催場所 行方市役所 北浦庁舎2階 第2会議室

○出席委員

行方市長	鈴木 周也
教育長	横田 英一
教育長職務代理者	滝 恵美子
委員	石崎 光春
委員	大崎 あい子
委員	明石 延之

○事務局出席者

教育部長	平山 寛児
学校教育課長	八木 峰男
生涯学習課長	浜田 健太郎
学校教育課指導室指導室長	金田 正浩
生涯学習課参事	根本 聡美
スポーツ推進室長	宮内 敏
学校教育課課長補佐	野原 文雄

○市長部局出席者 健康増進課係長 大場 宏美

1. 開 会

2. あいさつ

3. 付議案件

(1) 行方市教育大綱について

(2) 令和2年度 行方市の教育重点施策と幼小連携・小中一貫教育について

①教育重点施策

【1の矢】 学力向上

【2の矢】 いじめ・長欠・不登校対策

【3の矢】 特別支援教育

【4の矢】 就学前教育

【5の矢】 基本的な生活習慣の定着, 健康・安全教育

②幼小連携・小中一貫教育

(3) 公立幼稚園適正配置検討について

(4) その他

4. その他

5. 閉 会

○議 事 録

1. 開 会

平山部長から開会の宣言がありました。

2. あいさつ

鈴木市長からあいさつがありました。

横田教育長からあいさつがありました。

3. 付議案件

(教育長) 議事録署名委員に明石委員を指名します。

(1) 行方市教育大綱について

発 言 者	発 言 内 容
大崎委員	文言の部分で教えていただきたい。教育大綱基本方針の2番「新しい時代を牽引する資質・能力」のところで、「学びに向かう基盤的な学力」とあるが、「基礎的」ではなく「基盤的」という言葉を用いた理由や思いがあれば伺いたい。
横田教育長	ご質問いただいた一文は、前の文章「知識・技能，思考力・判断力・表現力とともに」に繋がる文章であり、「知識・技能，思考力・判断力・表現力とともに，学びに向かう基盤的な学力」と捉えていただきたい。非認知能力と関連し，それが「基盤」という捉え方である。
大崎委員	では，非認知能力としての学力ということか。
横田教育長	そうではなく，非認知能力も含めて基盤的と示した。
大崎委員	広範囲にわたるものということで理解した。
横田教育長	基礎的・基本的なものと学びに向かう力を含めて「基盤」とした。
大崎委員	了承した。
鈴木市長	文言について確認する。序文の中の「人口減少」「人生100年時代」については理解できるが、「超スマート社会」という言葉が気になった。意味や理由について伺いたい。
横田教育長	この言葉は国の「教育振興基本計画」等から引用した言葉である。「ソサエティ5.0」「新しい経済社会」も候補としてあったが，子ども達の職業観を見据えていかなければならないため，産業社会から成り立つという意味を含んだ「超スマート社会」という言葉を用いた。
鈴木市長	国の指針の中で同じように使われているのか。
横田教育長	「新しい時代の初等中等教育の在り方 論点取りまとめ」と「第3期教育振興基本計画」内では「超スマート社会 (Society 5.0)」と表記されている。
鈴木市長	であれば，行方市教育大綱の期間が令和3年度～7年度であり，5年後には「超スマート社会」という言葉が古くなる可能性がある。個人的な意見となるが，「Society 5.0」まで含めた方が良いのではないか。5年後の状況まで考えるのであれば，「超スマート社会 (Society 5.0)」まで入れた方が，長期間使えるものになるだろう。 市の総合戦略も長期間使用するものだが，本年度内容を確認した際には，修正箇所はほとんどなかった。これについても同様で，期間が5年間と長期にわたるので

横田教育長	<p>あれば、用いる言葉ひとつまで注意するようお願いしたい。令和3年度からのものである以上、慎重に検討してほしい。</p> <p>国での正式な記載は「超スマート社会（Society 5.0）」である。他の文書では、「超スマート社会」を「新しい経済社会」と記しているものもあったが、今の段階では「Society 5.0」が主になっていると感じる。</p> <p>世に出るものであるため、わかりやすい文章の方が良いと考えているが、今回は足りない部分があったということで、内容を再確認し、正式には次回の会議を通し決定する予定である。</p> <p>他になにか意見があれば、願います。</p>
石崎委員	<p>大崎委員同様、「基盤的」という言葉に違和感があったが、先ほどの説明で納得した。原案のとおりで良いと思う。</p>
横田教育長	<p>現在、国では「Society 5.0」に向け、これからの初等中等教育について諮問しており、GIGA スクール構想で一人一台端末整備等を前倒しで行うため、新たな方針を出さざるを得ない状況になると予想される。その際には、情報処理能力や読解力等が必要になるが、それらの意味を「先端技術などを活用」という言葉に含めた。本市ではそれらの施策が以前から行われており、GIGA スクール構想での一人一台端末の導入にあたって、先に説明のあった通り、通信設備等はかなり整っており、「本市ならではの質の高い教育」という一文についても、そういった面から証明されている。</p> <p>当然ながら、行方市の魅力を知ってもらう目的もあり、将来は地元に戻りたい、戻れなくても貢献したいと考えてもらえるような、人材を育てていくことを目標としている。</p>
明石委員	<p>基本方針の2「新しい時代を牽引する資質・能力」の文章の書き出しについて、「どのような社会の変化を迎えるとしても」の一文は、受動的な表現に感じる。他の部分は能動的なため、ここも「～変化に対応するための」等の前向な文体に変えてはどうか。</p>
横田教育長	<p>内容を吟味し、検討する。今後、他にも気になった点があれば、定例会等でお願います。</p>

(2) 令和2年度 行方市の教育重点施策と幼小連携・小中一貫教育について

発 言 者	発 言 内 容
大場係長	<p>健康課題として、歯科に関することや生活習慣に関する課題がある。成人期については、受診率が低く、医療費が高くなっていることから、重症化してから受診していることが読み取れ、予防できない現状があると感じている。乳幼児の検診でも、罹患率が高い状況にあるため、教育委員会と連携しながら、歯科課題に取り組んでいきたい。</p>
滝委員	<p>定例会や臨時会等で教育長の考えを拝聴できたので、考えはよく理解できる。</p> <p>前に倣った教育も大切であるが、今の時代に合うように子ども達を育てることも非常に重要である。そのためには、以前から挙げられている「超スマート社会(Society 5.0)」に対応できるよう、デジタル化に向けて子ども達の力をどのようにつけていくかがポイントとなる。将来的な教育の方針が明確であることは理解できるが、前述したデジタル化や外国語教育の内容を含めることができれば、より良いだろう。</p>

	<p>行方市のデジタル化に向けた取り組みは、以前から取り組まれており、一人一台導入の決定についても迅速だったように思う。しかし、ICTの授業活用には課題があるとのことだったので、授業の掲示や具体例などを工夫し、実際に使いやすいよう、改善が必要であると同時に、中心となる人材を育てていくべきである。また、中心となる人材がいても、異動の度にやり直しでは意味がないので、長期間継続していくための方針や指導力が必要である。継続のためには、現場の先生を指導し、理解してもらえる状態であればならないため、教育長の考えや方針を伝わるよう、文言を工夫していただきたい。</p> <p>女性の活躍について、少子化や晩婚化、人口減少などは女性に関係があると考えているが、労働力が不足する時代でもあり、女性が積極的に働く時代へと変わっている。その中で、女性が労働力の調整役とならないために、子ども達に女性がリーダーとして活躍する姿を見せることが重要である。施策の中に明記することはできないと思うが、念頭に置いていただきたい。</p> <p>教員は福利厚生で恵まれた職であるが、女性教員の中には管理職になろうという気持ちを持っていない方も多し。管理職の人数は県で決まっている部分もあり、市として取り組むことは困難だが、子ども達に対して活躍する女性の姿を見せてほしい。離婚を機に生活が厳しくなる方も少なくはないため、立ち直れる力をつけていけるように、明記できない部分の細やかな施策をお願いする。</p>
横田教育長	<p>本施策は、本市の教員一人ひとりに行方市の方針を理解してもらおうためのものである。5の矢の生活習慣に関しても、東北大学教授を招いた講演会に参加する保護者がすべてではなく、各課で連携しながらアウトリーチ型で、家庭訪問や健康増進課の定期健診を通じて保護者に情報提供をしていく。記載できない部分も多くあるが、いずれ背景となる部分も提示していきたいと考えている。</p>
石崎委員	<p>女性活躍の場について、本市でも将来的には女性管理職を配置したいと考えている。本年度は教頭職で2名が活躍しているが、いずれは校長職にも配置されるだろうと予想している。教員職には性別での差はないが、男女それぞれの長所を活かした学校経営を考えていかなければならない。</p> <p>英語教育に関しては、教育委員会としても同様の考えである。文章力や発音力、海外派遣やオーストラリアの小学生の受け入れ等、力を入れていきたいと考えている。</p>
大崎委員	<p>5つの矢に関する資料は事前に頂戴しており、拝見したところ大変良いものだと感じた。これらが何年間もかけて作られてきたということのを他の委員の方にも知っていただきたい。私が委員になった時は、就学前教育やPCを使用した教育は開始したばかりで夢のような内容だったが、実現間近ということで感慨深い。</p>
	<p>1の矢について、「特に課題が見られる」ということだが、学習課題は例年同様の傾向なのか。同様なのだとしたら、対策を入れるべきだと思う。重点施策は長期的であるため、詳細には記載できないと思うが、具体的な策を入れていかなければ、改善に繋がらない。課題に対する研究の視点を持ち、評価を行いながら改善を行っていくことが必要である。本施策とは別に、毎年の課題や目標をピンポイントで明記すべきだと思う。</p> <p>3の矢について、お二人の大学教授を講師として招き講演を行うとのことだが、なぜその先生をお願いするのか、目的や特徴等があれば伺いたい。市で多くの支援</p>

	<p>員を配置し、研修会等を設けているが、支援を要する子どもは、今後、増加する傾向にある。改善のためには、一般論のみの講演ではなく、特別支援を担当する先生が困ったときに、実際に役に立つ内容が必要であり、現場の先生方が価値あるものだと感じる研修に繋げてほしい。</p>
<p>金田室長</p>	<p>学力については、資料に記載のとおりである。課題は例年同じ傾向で、本市に限らず全国的に同じであり、改善は諮られていない。いくつか要因はあるが、改善策のひとつとして、小中一貫した取り組みが重要だと考えている。一般的に、小学校高学年や中学校からの苦手は、低学年・中学年での小さな躓きが原因だと言われており、本市では小中一貫の重要性に着目した。小さな躓きを改善しながら指導することにより、卒業までに少しずつ改善していく計画である。</p>
<p>大崎委員</p>	<p>ご意見いただいた目的について、本年度は「評価からの授業作り」を目的とし、授業開始時と終了時で「何ができるようになったか」を子ども達に意識させ、評価することで、国の目標や県・市の課題が克服できたかを確認しながら進めていく。また、子ども達が苦手としているのは、指導者が教えるのが難しいと感じている部分であるため、その部分の授業研究や公開授業を積極的に行うよう、指導していく。</p>
<p>金田室長</p>	<p>課題解決に向けた姿勢が見られ素晴らしい。目的がなければ、ただ元気に授業を受けただけになってしまうので、今後も評価からの授業という姿勢を推進していただきたい。</p>
<p>大崎委員</p>	<p>3の矢の特別支援教育について、日本臨床心理士会の大六先生をお招きし、発達障害早期発見のポイントや幼小中での教師の関わりについて、講演いただく予定である。また、常磐大学の秋山先生には、発達障害の早期発見、二次障害の防止についてお話いただく。</p>
<p>金田室長</p>	<p>二次障害の防止とは、障害が原因による学習の遅れ等の影響という認識で良いか。</p>
<p>大崎委員</p>	<p>そういったことも含まれる。その他にも、発達障害への理解がないことが原因で引き起こる悪循環等があり、そういった内容の講演をいただく予定である。</p>
<p>横田教育長</p>	<p>非常に良い機会だと思う。発達障害の子どもは増加傾向にあるので、どの先生にも勉強してもらい、学級担任が対応できることは重要になるだろう。</p>
<p>明石委員</p>	<p>3の矢については、特にアセスメントや自立活動を大切にしなければならないと考えている。今回お招きする大六先生は、発達検査の開発に関わった方であり、現場教員からの要望である。</p>
	<p>重点施策に対する丁寧な説明感謝する。</p> <p>幼小連携・小中一貫校育について、実際には各幼稚園、学校ごとの特色、課題を持っており、課題については、各々でなければ解決できないかと思うが、市として共通に解決できる部分を見つけ出し、教師の個々の力をつけることで、子ども達に還元して行ってほしい。しかし、これらをコーディネートするのは困難なように思う。他校の授業を見に行く機会はなかなか作れないので、連携のシステムを構築することで、具体的な課題解決に繋がるのではないか。どうしても教師個々での資質、能力は異なるので、ひとりひとりに合ったやり方で進めていただきたい。</p> <p>幼小の連携について、本市は公立私立で併存していると思うが、交流の機会は就学の時くらいしかなく、私立との交流は少ないように感じたので、上手く連携を図り、子どもの様子、状態が把握できる連携の在り方を考えていく必要がある。</p>

横田教育長	<p>5の矢について、学校では学校保健委員会という取り組みが行われており、主に授業参観や学校の都合で開催する等しているようだが、参加する保護者は非常に少ないように思う。しかし、保健委員会で話し合ったことや研修したことは、参加しない保護者へも伝えていくべき内容であるので、全家庭に伝わるようなシステムが必要である。努力している学校は多いと思うが、実際にはどうか確認しておく必要はあるだろう。</p>
	<p>明石委員からあった件については、学校保健委員会のメンバーに話し合ってもらった後、拡大保健委員会を開き、課題を各学校の授業参観の際に話し合ってもらう機会を設けている。生活習慣や健康課題は将来に関わる大切なことだと十分に確認してもらい、併せて、生涯学習課、健康増進課と連携し、こちらから訪問するかたちでも伝達してく。</p>
滝委員	<p>本年度より、特別支援教育相談員及びGIGAスクールサポーターを配置し、さらに指導主事を昨年度より1名増とした。教育行政ができることとは、様々な課題に対しての学校の支援であり、本年度は昨年度と比較し、様々な課題への対応ができている。特別支援教育では、困り感のある保護者や教員に対し、特別支援教育相談員による就学や就園の相談対応や関係機関と連携した研修会を実施している。昨年度と比較して、施策及び人員により前進しているため、今後も継続して学校現場での働き方改革や子どもとの向き合い方の改善に努めていく。</p>
横田教育長	<p>幼稚園教育について、明石委員から私立保育園との連携をどうしているか、との質問があったが、私立公立ともに連携を取り、年に数回研修会も行っており、小学校へのアプローチカリキュラムやスタートカリキュラムが既にできている。昨年度見学した授業では、非認知能力育成のためにどのような指導をするか、という部分に焦点を当て、子ども達も少しずつ自分の意見を言えるようになり、変化が出ていると感じた。行方市は設備も良く、ある程度少人数の学級で各所と連携しながら取り組んでおり、非常に進んでいる。これ以後も続ける必要はあるが、連携した結果、新たに見えた課題もあると思うので、それについても改善に努めてほしい。私立の先生方には研修会に前向きに参加いただいており、特にこども園の先生方は積極的に驚かれるだろう。</p>
鈴木市長	<p>アプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムは、行方市独自のものである。幼稚園から中学校までの11年間を大きな区切りとして捉え、課題改善に努めていく。公立私立交流で課題となるのは、子ども達よりも保護者同士であるため、保護者間でのギャップを埋めていかなければならない。</p> <p>他に何かあるか。</p> <p>ないようなので、鈴木市長よりご意見をいただく。</p>
	<p>切れ目のない教育や幼小連携に関することについて、通常スポーツ少年団は18歳まで所属することができるが、行方市では小学校で引退となる場合が多い。スポーツは幼稚園から入る子も多いため、その流れを切らさなければ、おのずと小中一貫になっていくだろう。スポーツや文化の繋がりが地域的にあれば、学校に限らず、保護者間の交流が生まれるため、ぜひ、幼小連携・小中一貫教育の【連携1：地域や保護者】の欄に含めてほしい。接続点が多くなければ連携にはならないので、学校の繋がりだけではなく、祭りでの地域の繋がりやスポーツでの保護者の繋がり等を踏まえた内容をご検討いただきたい。</p>

横田教育長	今の意見について、学校と地域の繋がり、保護者同士の繋がりという考え方で良 いか。
鈴木市長	そうである。
横田教育長	ご意見いただいた点については、生涯学習課、スポーツ推進室、指導室で連携し て考えていく。
鈴木市長	2の矢のいじめ・長欠・不登校について、弁護士会との関係性を明記していただ いてありがたい。いじめや人権に関しては、授業で教えることも必要だが、保護者 の普段の様子による部分も大きいのだろう。経済的罰則を受けることやいじめによ る自殺でどこまで責任が及ぶかを知らない保護者が非常に多い。いじめを子ども間 の問題として終わりにするのではなく、保護者にも自分たちにどのような責任や影 響が出るのかをきちんと認識してもらえよう、働きかけていただきたい。
横田教育長	5の矢について、虫歯が多いということは長年言われており、健康増進課で歯科 医師会と連携している。朝食についても同様で、連携機関をうまく活用していただ くよう、検討いただきたい。
	5の矢の意見については、大きな課題であるため検討する。 いじめ問題について、弁護士会を含めたチームとしての学校であるが、法的な部分 は勉強しなければわからない。以前に県内自治体のいじめ問題に関わった弁護士に 来ていただいたが、講演の内容には驚いた。いじめ問題は、教員のみでは対応でき ないため、チーム学校としての捉え方でやっていかなければ改善されないと感じて いる。

(3) 公立幼稚園適正配置検討について

発 言 者	発 言 内 容
横田教育長	答申が出ており、3園を2園あるいは1園、公立認定こども園、3年保育にして いただきたい、との意見に基づき話し合いを進めているが、令和5年度までに統廃 合を行うという計画には無理があると考えている。実際、私立幼稚園のみでの受け 入れには人数的な限度があり、待機児童が生じてしまう可能性もあるため、例えば、 年少、年中園児が10名未満になった場合には、休園することも検討している。人 数の増減によって、今後の対応を考えていく方針である。保護者の中には、根強く 幼稚園を希望してくださる方や共働きのため私立保育園に預ける方もおり、様々で ある。幼稚園、保育園にはそれぞれのメリットがあるが、すべてを私立に任せてし まうことは現状できない。私立は定員の120%まで預かりが可能であるため、今後 の方向性を話し合い、方針次第では令和4年度に1園減とすることも考えられる。
鈴木市長	人数が減少したことは明らかであり、今後も減少する可能性が極めて高いのであ れば、この考え方を示せばある程度の理解を得られるだろう。合併ありきの計画で はなく、選択肢のある方針や考え方を明確に示すようお願いする。

(4) その他

発 言 者	発 言 内 容
石崎委員	スクールバスの運営について、特例措置により利用料が4月以降変わっていたかと 思うが、今後の対応はどうか。これまで1000円としていた額が3000円に変

	<p>わる際の保護者への周知はどのように行うのか。</p>
八木課長	<p>本来 3000 円であるバス利用料を保護者の負担軽減ため利用料 1000 円としていたが、へき地補助金が令和 2 年度で終了するのと併せて、利用料 1000 円は制度上終了となる。</p>
鈴木市長	<p>へき地補助金は 5 年間のものであり、終了後は市の財政でやっていくことになるが、個人としては、これまでと変わらずの額でやっていきたいと考えている。国及び県に対し要望書を提出する等して、以前と変わらぬ対応ができるよう努力していきたい。</p>
横田教育長	<p>その他、何かあるか。最後に本日の会議について、市長よりご意見いただきたい。</p>
鈴木市長	<p>本日挙げた話の中に人権や女性の待遇に関する意見があったが、そのことに関して、吉川市の学校では、男女の制服を選択できるようにしたと聞く。本市でもジェンダーフリーの考え方を入れていくべきだと考えている。近辺でも、ズボンかスカートかを選択できる学校も増えてきており、本市でも今後の制服のあり方を検討いただきたい。詰め襟やセーラー服がいけないということではないが、服装の選択ができるような手段を取り入れる時期ではないか。検討の余地があることを提言させていただく。</p>
横田教育長	<p>この件に関しては、昨年度にもご意見をいただいているが、実際にそのような問題は市内学校でもある。制服を自由に選択できるようにしたい旨を校長会とも話しているが、地域と一体になり人権的な意識を改善していかなければならないため、時間はかかるだろう。保護者の意見を聞きながら進めていきたいと考えている。</p>
鈴木市長	<p>時間がかかることについては、仕方ないだろう。これまで続いたものを急に変更することは負担も大きくなるため、時間がかかっても良いので徐々に改善できるよう、地域の意見等をうまく調整しながら、ぜひ進めていただきたい。</p>
横田教育長	<p>ありがとうございました。</p>
	<p>最後に総括として鈴木市長よりお話しいただく。</p>
鈴木市長	<p>多くのことを提言したが、基礎となるのは地域の人たちや子ども達なので、筋の通った関係であれば、活力のある地域になれるだろう。スクールバスの件や ICT 環境についても国が動いていることであるので、市としてもきちんと準備をして、生活しやすい、活力のある地域、教育現場を目指していきたい。</p>

4. その他

(次回総合教育会議の開催について)

5. 閉 会

平山部長から開会の宣言がなされました。